すこやかちゃん

友富（ゆうと）ちゃん・成悟（しょうご）ちゃん
（平成15年12月30日生・平成17年11月７日生）
両親＝遠藤政男・久美子さん〔岩井〕
「いたずらざかり！どっちが男前?!
愛車もカッコイーでしょ?!」

健成（たける）ちゃん・碩人（ひろと）ちゃん
（平成15年６月18日生・平成18年6月20日生）
両親＝長嶋豊明・亜希子さん〔神宮寺〕
「二人は仲良し♡」

可憐（かれん）ちゃん（平成18年９月４日生）
両親＝幸島秀尚・智美さん〔三川〕
「2,798g 48㎝で元気に生まれた
我が家の天使☆ 笑顔が最高!!」

＊すこやかちゃんを募集しています＊
掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班（〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070）へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。

紙上展示室 ―旭モノ語り― 第二十一回

幽学別れの歌

放浪の前半生を送った大原幽学、歌を詠むことは多くの人々との交流の手段でもありました。日記には、折にふれて詠まれた歌・句が膨大に残されています。さて、幽学三十五歳、初めて講義を行った思い出の地、信州でのこと。次の目的地へ向かうため、見送りにきた友人たちに贈ったのが次の歌です。

わかれても心はかよへ友人の
誠の道の隔てなければ

遠く離れてしまっても、仲間の心は通じ合っている、真実を求める道は誰に対しても分け隔てなく開かれている。「世の中のためになる道に進もう」と決意し、次の地に赴く、寂しくも晴れがましくもある、そんな心情が伝わってきます。

信州の門人たちに別れを告げた幽学は、この後、江戸を経ていよいよ房総の地に上陸とあいなります。農村の指導者として活躍することもまだあずかり知らぬ、幽学の新しい旅立ちのときを、まさに象徴する歌でもあるのです。

一方で、自害というかたちで自らの命を絶った幽学は、辞世の歌も残しています。歴史上の人物といえば、通常もっともよく知られているのは、最後の一句だったりしますが、幽学に関してはこの別れの歌が代表的に取り上げられることが多いのです。

幽学自身もお気に入りの歌だったとみえて、この歌を書いた短冊が今も多くの門人宅で見つかります。今回紹介した写真もそのうちの一つ。左は下書き、「実生」は当時の幽学の名前です。

今月から、この旭市で新生活が始まる新入生、新社会人の皆さんにとって、旭がよき地でありますようエールを送ります。あなたにとってかけがえのない「ともびと」と「誠の道」を見つけられますように。

〔大原幽学記念館　猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

- ６日(金)　春の全国交通安全運動（～15日）
- ７日(土)　袋公園桜まつり　演芸＆子どもゲーム大会
　中央小入学式
- ８日(日)　千葉県議会議員選挙投票日
- ９日(月)　富浦・矢指・中和・萬歳・古城小入学式
　海上・干潟中入学式
　旭農業高校・東総工業高校入学式
- 10日(火)　市内小中学校入学式（上記の学校を除く）
- 11日(水)　旭中央病院附属看護専門学校入学式
- 29日(日)　昭和の日

編集後記

たった一つの思い出しか持つことが許されなかったら、どんな思い出を胸に抱きますか？それはきっと、何かの特別な記念日のことなどではなく、私ならたとえば、家族みんなで夜に食卓を囲んだり、朝出かける前にトイレの順番を争ったりという平凡な日常の風景になるだろうなあ、と思います。毎日毎日繰り返している何でもないことが、実はとても大切で、貴重な瞬間なのだと思います。なぜなら、そんな毎日はいつか必ず記憶の中だけのことになるのですから。（一）

R100　PRINTED WITH SOY INK
古紙配合100％再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。